

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 118 回

『「今、再び 新渡戸稲造」 ～ 現代的要請 ～』

2022年7月15日 栃木県の下野新聞の記事【7月10日の第10回『がん哲学外来市民学会 栃木大会：テーマは、『人の心に贈り物を残していく』（大会長 平林かおる 栃木県立がんセンター 副病院長)】が送られて来た（画像1）。大いに感動した。今回の学会の良き思い出となった。

2022年7月16日午前 早稲田大学オープンカレッジ夏講座『がんと生きる哲学』に赴いた。

目標：がんとともに暮らすことを知り、がん患者と対話し、がん患者に寄りそう方法を受講者自らがみつけ、笑顔になることをめざします。

講義概要：「がん哲学」とは、生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする医師との対話から生まれました。病理学者として、科学としての癌学には哲学的な考え方を取り入れていく領域があるとの立場に立ち『がん哲学』を提唱しています。日本人の半分ががんになる時代、好むと好まざるとにかかわらず、多くの方ががんと一緒に生きる方法を見つけなければなりません。授業では教科書の読みあわせと解説をしつつ、受講者とのディスカッションを中心に講義をすすめます。がんとともに生きている患者さん、がん患者の家族や身近に患者がいる人、医療従事者等のがん患者に寄りそいたいと思うかたすべてが対象です。

テキスト：『がん細胞から学んだ生き方「ほっとけ 気にするな」のがん哲学』（へるす出版）。

と紹介されていた。受講者との対談では、大変、貴重な時が与えられた。

午後は、中野区がん哲学連絡会設立シンポジウム『中野区にゆかりの新渡戸稲造生誕160周年記念 ～ がんと哲学と新渡戸稲造 ～』に向かった（東中野キングス・ガーデンに於いて・画像2）。来賓の挨拶は、中野区社会福祉協議会事務局次長がなされた。筆者は、講演『今、再び 新渡戸稲造』の機会が与えられた。多数の質問もあり、大変有意義な時であった。スタッフの皆様の熱意には、大いに感服した。『新渡戸の教育』（案）の映画製作のプロデューサーの方も参加されていた。映画の実現は、現代的要請ではなかろうか！

雷鳴抄

2022.7.15

日本は「がん大国」と言われる。国民の2人に1人が罹患する時代で、筆者の周りにも闘病中であったり、亡くなったりした友人・知人は多い▼治療の一方で、見過ごされがちな患者の気持ちや考えに配慮しようと2008年に「がん哲学外来」が始まった。順天堂大学の樋野興夫名誉教授が提唱したもので、そこから発展した語り合いの場である「メデイカルカフェ」は全国に広がっている▼本県でも13年に「まちなかメデイカルカフェin宇都宮」が開設。その関係者が中心になって先日、宇都宮市で第10回がん哲学外来市民学会栃木大会を開いた▼鹿沼市出身のノ

ンフィクション作家柳田邦男さんが招かれ「贈り物としての『死後生』」他者にも自分にも」をテーマに講演した。死後生とは、柳田さんが取材や肉親のみとりに経験して独自につくった言葉だという▼肉体はなくなっても残された人の人生を豊かにし、自分の人生をより良いものとする考え方である。人生の最終章を迎えるにあたり、どんなささいなことでも人生記を書くことを聴衆に勧め「自分の心の声を聞くことになり、死後生を生きることになりました」と訴えた▼がん告知を受ければ誰しも心は平常ではいられない。がん哲学外来の存在は、病気を持ちながらも前向きに生きることが出来る寄る辺になると感じた。

中野区にゆかりの新渡戸稲造生誕160周年記念

がんと哲学と 新渡戸稲造



日時

2022年

入場無料

7月16日(土)

14:00～16:00 (受付開始13:30)

場所

東中野キングス・ガーデン

※会場へのアクセスは裏面をご覧ください

茶菓付

プログラム

I. がん哲学カフェの現場から

- ・中野区と新渡戸稲造の繋がり
東中野メディカルカフェ 奥山 幸
- ・新渡戸稲造に学ぶコミュニケーション力
白鷺メディカルカフェ 太田 和歌子
- ・新渡戸稲造に学ぶ現代医療のあり方
がん哲学堂カフェ 小見山 博光

II. 講演

『今、再び新渡戸稲造!』 樋野興夫氏

—質疑応答—

<講師ご紹介>



1954年鳥根県生まれ。医学博士。順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、一般社団法人がん哲学外来理事長、恵泉女学園理事長。がん患者の不安と悩み、その気持ちを受け止める対話の場として2008年「がん哲学外来」を創設。がんと向き合うすべての人の支援のための「メディカルカフェ」は全国180箇所で開催されている。著書多数。

いまや国民病となった感のあるがん。たくさんの方ががんに関わらざるを得なくなりました。しかし、その思いを語る場があるでしょうか。抛るべき指針はあるでしょうか。がんに意味を見出していく。それを先人の志しからも学んでみませんか？これが本連絡会のご提案です。いざというときの心備えに、また今正に必要としている方が身近にいらっしゃればその方途として、今回のシンポジウムが参考になれば幸いです。ぜひお気軽にご参加いただき、共に思いを巡らせてみませんか。 ※がん哲学・カフェ詳細については裏面に

参考図書進呈

※先着32名様会場お渡し
オンライン参加の方は後日
キングスに取りに来られる方
限定になります



申込・問合せ先

会場(定員32名)とオンライン(定員20名)

※コロナ状況によっては会場定員を半分(16名)にします。また定員になり次第締め切らせていただきます。ご了承ください。

03-3368-5200(平日9:00～17:00)

中野区がん哲学連絡会
東中野キングス・ガーデン内(奥山・渡辺)
※TEL/FAX/メールでどうぞ 裏面参照
nakano.cafe@kg-tokyo.or.jp



主催 中野区がん哲学連絡会 後援 中野区社会福祉協議会 一般社団法人がん哲学外来 *本事業は中野区社協助成事業です